

安全な海外渡航のために



2016年度、日本各地から500名超がオイスカの海外プロジェクトを訪問、視察や活動体験を通じ取り組みへの理解を深めました。
 現地の人々や子どもたちとの交流を楽しみに、訪問を重ねる方も多くいます。
 滞在先で安全に過ごし、よい思い出と共に帰国してもらうため、
 海外で起こり得るトラブルを知り、回避するための最新情報をお伝えします。

(構成：月刊「OISCA」編集部)

海外でのトラブル

海外に出かける際に繰り返し注意を促されるのが、現金やパスポートの盗難に関すること。外務省が発表した「2015年海外邦人援護統計」^{*}でも、海外で邦人が巻き込まれたトラブルで最も多いものは窃盗被害だといことが分かります。スリや置き引きなどはグループで犯行に及ぶケースが多く、時間や場所を尋ねたり、大声を上げたりして①ターゲットの気を引く ②盗む ③運ぶなどと、役割を分担し一瞬のうちに終わります。空港やホテルのロビー、レストランなど多くの人が行き交うところ

では特に注意が必要です。団体での渡航では、つい日本にいる時と同じような感覚に陥りがちですが、常に危機意識を持って行動しましょう。

オイスカの活動現場では、長年の取り組みを通じて地域住民との信頼関係が確立されています。そのため、現地の人たちとの交流時に親切なもてなしや純粋な心に触れ、「安全な国だ」との印象を受ける方が多いようです。もちろん信頼関係の構築が安全保障につながっている面もありますが、それが国全体の治安状況とは違うことを認識しなければなりません。

また、病気やケガも多く報告されています。食べ物や水の違いについ

ては、多くの方が薬の準備をし滞在中も注意を払っています。しかし、それ以上に海外への渡航では、長時間の移動や急激な気温の変化といった要因から思わぬ疾病のリスクが高まることを知っておきたいものです。

^{*}在外公館が把握した件数でありすべての発生事案ではない

テロへの対策は

近年ではテロの脅威に対する危機意識を高めることも求められています。オイスカが企画するツアーの主な派遣先はアジア・太平洋地域であり、かつてはテロの危険性はそれほど高くはありませんでした。しかし、外務省領事局海外邦人安全課の邦人



専門家に
聞きました!



外務省領事局
海外邦人安全課
邦人援護官

ほしのだ おさむ
伯耆田 修氏

海外安全対策について教えてください

最近是一般犯罪(盗難や詐欺など)以上に注意を払わなければならないのがテロの脅威です。危機意識を持つことで命を守り、負傷のリスクを下げる事ができます。例えばテロリストが建物内を襲撃・爆破する場合、2階まで上がってくることはほとんどなく、入口からすぐの場所で行われています。安全確保のためにできることとして、ホテルから同行者と外出する時の待ち合わせは、入口付近のロビーではなく2階以上のどこかの客室付近にする、建物に入った後入口以外の退避口を確認するといった行動のほか、ガラスを多用した建物には近づかないように用心することなども挙げられます。

また、多いのはスマートフォン盗難被害です。開発途上国では日本との貨幣価値が10倍以上になる国もあります。スマートフォンを操作しながら歩くのはたいへん危険です。相手は殺害をしても奪う価値があ



オイスカではフィリピンに派遣していた日本人スタッフが共産ゲリラに誘拐され、65日間山中に監禁されるという事件を経験している(月刊「OISCA」1990年9月号より)

援護官である伯耆田修氏は「どこであつても絶対に安全ということはない」「誘拐とテロは防げない」と断言し、近年は日本人も標的となつてきていると指摘します。テロの脅威が世界中に広がる中、自分自身の命を守るために最も大切なのは、リスクを下げる行動です。最近のテロの特徴は、襲撃、爆破で短時間により多くの人々を殺傷することを狙いとしています。伯耆田氏は自身の行動として、レストランを利用する場合には「できるだけ2階以上のフロアを選び、一番奥の常に入口が見える席に壁を背に向けて座る」ことで有事に備えているとのこと。万一襲撃などを受けた場合は一刻も早く退避することが不可欠で、「非情のようではあるが被害者がいても救

援する時間はなく、即、その場から離れる必要がある」とも。まずはこうした事態に巻き込まれることのないよう、人が多く集まる場所を避けることはもちろん、やむを得ない場合は滞在時間を短縮するなどの工夫が必要です。

「たびレジ」への登録を

外務省では、さまざまな国の安全情報を必要な人にリアルタイムで届けられるよう14年7月に海外旅行登録「たびレジ」を開始し、渡航者に登録を呼びかけています。これは渡航先の最新情報や緊急事態発生時の連絡メールなどが受け取れるシステムで、オイスカでは当法人が企画するツアーの代表者に登録をお願いし、参加者の皆さんへの情報の共有や注意喚起に役立ててもらっています。

方法は「たびレジ」の専用サイトに必要事項(旅程、滞在先、連絡先など)を入力するだけの簡単なものです。海外出張やツアーの引率のために利用したオイスカ本部職員からは、「大きな行事の日時や場所といった詳細情報を事前に知ることができ、渋滞のリスクが想定できた」「デング熱などの感染症に関する注意喚起をツアー参加者に促すことができた」といった声が聞かれました。国や地域ごとの最新情報を把握することは



たびレジ <https://www.ezairyu.mofa.go.jp/tabireg/>

リスクを回避するために欠かせないことです。自身のメールアドレス以外にも家族や職場のアドレスも登録できます。常に新しい情報を入手し、より安全で快適な旅行ができるよう「たびレジ」の活用をお勧めします。また、当然のことながら海外旅行傷害保険への加入は必須です。オイスカが企画するツアーでももちろん加入をしています。個人での旅行を楽しむ場合にも必ず加入してください。多くの空港では保険会社の窓口があり、自動契約機も設置されています。万一の場合に備えて、安心安全な旅を楽しみましょう。

ると考えているかもしれませんが。屋外での使用はやめてください。

犯罪以外に気を付けることは

疾病です。特にご年配の方に多いのが、脳溢血や心筋梗塞を起こすといったケースです。高血圧などの持病がある方やハードスケジュール、時差、あるいはエコノミー症候群など長時間のフライトによる影響もあるかもしれません。海外で病院にかかると経済的な負担が大きくなります。盲腸で入院する程度でも、1泊100万円は必要だと考えていいでしょう。保険には必ず加入してもらいたいですね。

相手に不快感を与えることのないように、渡航先の文化習慣を知ることでも大切です。それから日本とその国の法律の違いも。例えば運転中に事故を起こした際、日本では安全な場所に車両を移動させますが、国によっては証拠隠滅だと判断され罪に問われることがあります。また写真撮影も国によって禁止されている場所が違います。ダムが撮影禁止といったケースもありますから気を付けなければなりません。

最近では海外安全対策の研修を開催する企業や団体、大学などが増えていて、講演依頼は2年前の4倍以上になりました。危機意識を高め、安全対策を講じるため、ぜひ皆さんも研修を実施してみたいかがでしょうか。